

令和元年度 教育センター事業の紹介

教育センター職員

所 長 小 川 晋
(教育長)
所長代理 島 瀬 英 智
(入善西中学校長)
指導主事 森 岡 美也子
教育専門指導員 永 原 義 久
// 上 島 俊 晴
教育指導員 泉 邦 子
// 道 又 三代美
助 手 五十里 悦 子

のぞみ【適応指導教室】

《開設時間》
月曜日～金曜日
午前9時～12時
《主な活動》
教科指導、生活指導、体験活動など
☆ 児童生徒の主体性を尊重しながら、学習や様々な体験活動、いろいろな人との関わりを通して自己を見つめ、自立心や集団への適応力を養うとともに、学習への意欲付けを工夫して、学校生活への適応を図ることを目指しています。
入所や見学を希望する場合は、事前に電話等でご相談ください。

《教育相談》

《開設時間》
月曜日～金曜日
午前9時～午後5時
☆ 日頃の学校生活の様子や友達関係、家庭の様子など小・中学生に関する悩みや心配ごとなどについて教育相談を受けています。
【教育センター】
TEL 72-0009
【時間外】
○町P連留守番電話
TEL 72-2331
○教育センター
FAX 74-2792

【 夏季休業中の研修会のご案内 】

ご参加をお待ちしております。

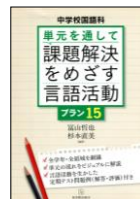
会 合 名	日 時	会 場	内 容
カウンセリング講座	7月29日(月)13:30～	うるおい館	講師 富山国際大学 教授 村上 満 先生 演題 「通常級での“気になる”児童生徒の対応の在り方」
★生徒指導に関する講演会	7月31日(水)14:00～	うるおい館	講師 一般財団法人日本ベップトーク普及協会 専務理事 浦上 大輔 先生 演題 「ワクワクする習慣づくりとコトバのチカラ」
☆理科実験・観察訪問研修	8月2日(金)9:30～	黒東小学校	電気の利用【6年】
	8月2日(金)13:30～	入善小学校	電気を使った実験の基本操作
外国語活動研修会	8月6日(火)13:30～	うるおい館	講師 東部教育事務所 指導主事 青山 拓也 先生 演題 「新学習指導要領に応じた外国語指導の在り方と効果的な小中連携」
★道徳に関する講演会	8月8日(木)14:00～	うるおい館	講師 帝京大学大学院 教授 赤堀 博行 先生 演題 「道徳科の特質を生かした授業改善と評価」
☆理 科 教 育 講 座	8月20日(火)9:30～	黒部市一带	講師 県総合教育センター 科学情報部研究主事
★外国語活動に関する講演会	8月22日(木)14:00～	うるおい館	講師 上智大学 教授 吉田 研作 先生 演題 「新学習指導要領にみる小中の英語教育」

★印：魚津地区教育センターとの協業事業

☆印：県総合教育センターとの協業事業

☆ 新 規 購 入 図 書 の 紹 介 ☆

- ◆「単元を通して課題解決をめざす言語活動プラン15」
著者：杉本 直美 富山 哲也
- ◆「自立した読み手が育つ読書生活デザインカ」
著者：杉本 直美
- ◆「ひといちばい敏感な子」
著者：エレイン・N・アーン 訳者：明橋 大二



編 集 後 記

新元号「令和」がスタートし、早、2か月が過ぎました。「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、新しい文化、新しい時代を切り開いていく」という思いが込められているとのこと。これは、第3期教育振興基本計画に示された「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成」と一致しています。新元号が決まってから、報道で「令和は、どんな時代になるとお思いますか」という質問をよく耳にします。「よい時代になるといいです」などの返答が聞かれ、誰もがそう望んでいます。しかし、「令和」という時代を創り上げていくのは、私たち一人一人であり、「なる」ではなく「する」ことが重要だと考えます。先に述べた「令和」が意味するところであり、自ら新しい時代を創り、切り開いていく子供たちの育成を目指して進んでいきたいと思うところです。

発行：入善町教育センター

〒939-0626

富山県下新川郡入善町入膳 5232-5

うるおい館3階

TEL:0765-72-0009 FAX:0765-74-2792

Eメール：nyuzen-ec@tym.ed.jp

ホームページ：http://www.nyuzen-c.tym.ed.jp



「学び合うこと」

入善町立ひばり野小学校

校長 松田博昭

本校は理科研究推進校として、昨年度から研究を進めてきました。授業づくりに向けては、長い時間をかけて教員が共に学び合う姿を学校の内外でみることができました。そのことを中心にお話ししようと思います。

私が赴任したのは研究発表の一年前、その年度は全担任が理科・生活科を担当し、提案授業を互見して、手探りで発表に向けた準備を進めていました。理科を専門にしてきた教員はおらず、校内研修だけでは事足りないため、全職員が手分けをして県内外の研究授業に参加しては学校に持ち帰って話し合い、理科の問題解決学習をどう進めればよいのかというところから学び合いました。もちろん、研究校として実績のある学校の授業のように、子供たちが積極的に話し合う活気ある授業展開というわけにはいきません。まず自分たちに提案できることは何なのかを考える日々でした。

初年度の発表に向けての地区の研修会では、授業づくりについて活発な意見が交わされました。研究の趣旨を踏まえた改善点や自らの経験に基づいた子供の考えを捉える工夫等が話し合われ、毎日が学び合いの場でした。提案された多様な考えが重なり、練り上げられていくのを見るたび、共に研究していることを実感できました。多くの不安を抱えていた私たちでしたが、部員の皆さんからは大きな協力と、何より発表に向かう勇気をもらいました。

そして、金沢大学、富山大学で教授として教鞭を執られ、教諭としての実績もある松本謙一先生に指導を仰げたことは、またとない学びの機会となりました。先生からは、子供が問題を自分のものとして捉えるための手立てとその重要性、そして主体的に問題解決をしていく授業の進め方について、何度も教えていただきました。また、新学習指導要領への移行期の発表であり、困難を感じていた私たちに、両教育事務所の方々からは、単元構想から本時の流れに至るまで、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、丁寧な指導・助言をしていただきました。その数々の教えは、機会あるごとに部員同士が学び合うことで伝わり、研究を進める上での大きな力になりました。

今年も4月当初より、地区の理科部員と共に発表に向けた準備をしています。今年度は、部員の多くが入善町の教員です。発表前の事前授業を含め、様々な役割を入善町の小学校の部員が進んで引き受けてくれて、とても頼もしく思っています。発表はまだ先ですが、学び合ったことが形として現れてくれればと願っています。そしてこれからも様々な場面で、理科の研究に限らず、教員の皆さんの学び合う姿を見ることが楽しみです。